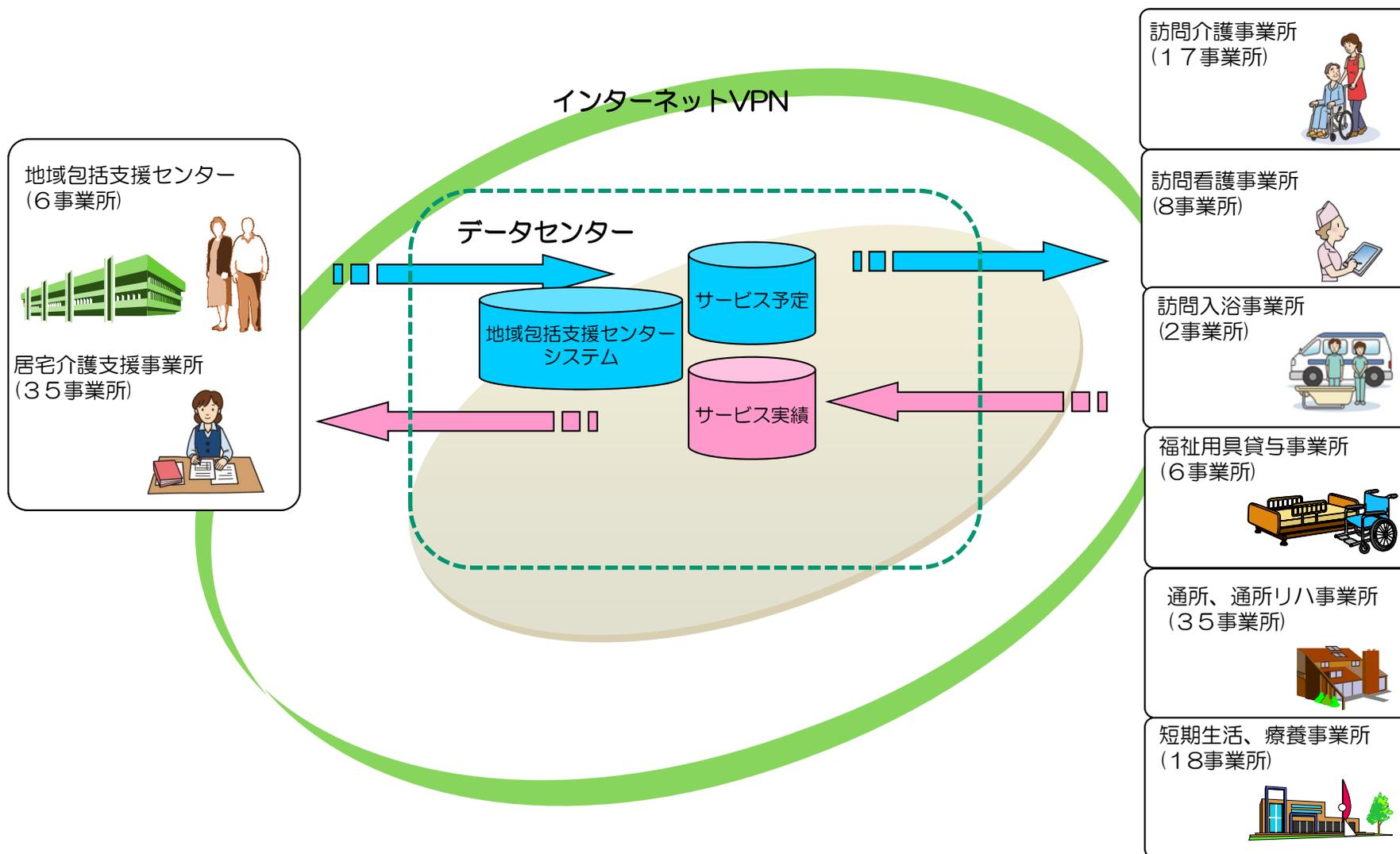


介護情報ネットワークシステム ご紹介資料

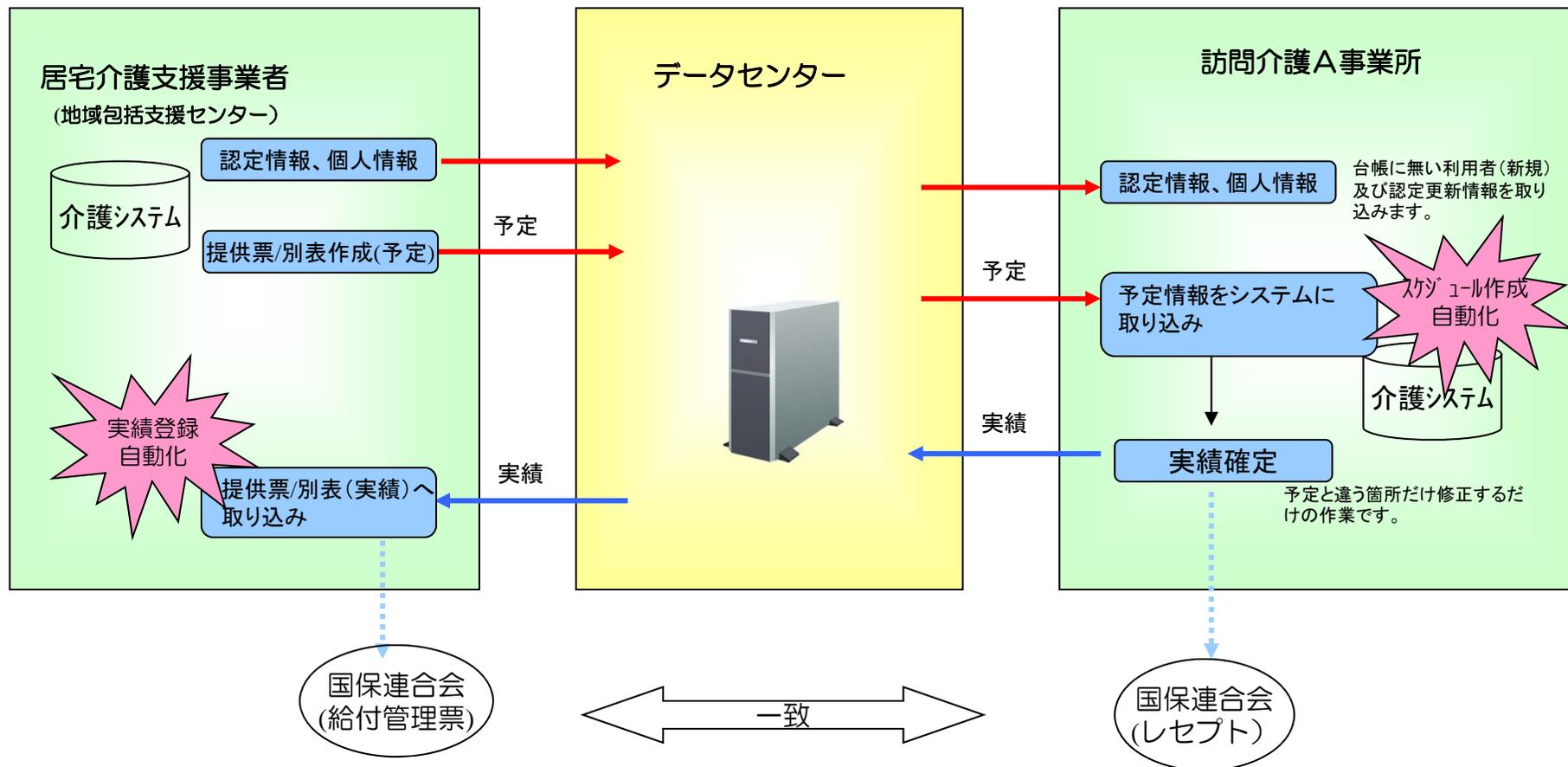
介護情報ネットワーク概要

介護事業者間で取り交わされる情報の中でも特に頻度の高い、提供票情報を安価なインターネットVPNを利用しデータで受け渡しをするシステムです。合併前の旧上越市（高田・直江津 地区）を中心に運用されております。



介護情報ネットワーク データの流れ

居宅事業所の介護システムで作成された提供票データは、データセンターに集約されます。サービス提供事業所は自事業所のサービス予定情報を取得し、介護システムに取り込むことでスケジュールが自動生成されます。サービス提供事業所は実績が確定した段階で、データセンターに実績情報を送付し、この情報を居宅事業所が受け取り提供票（実績）に取り込みます。給付管理の情報がデータで連携される為、入力ミスなどによる国保連合会での不一致（返戻）を防止します。



介護情報ネットワーク 連携データ（御参考）

居宅介護支援事業所（地域包括支援センター）

⇒ サービス提供事業所

①利用者基本情報

利用者氏名（漢字）
利用者氏名 カナ
生年月日
血液型
性別
郵便番号
住所
TEL・FAX番号

②介護保険情報

保険者番号
保険者名
被保険者番号
交付年月日
給付率
要介護度
認定年月日開始～終了
区分支給限度額

居宅介護支援事業所（地域包括支援センター） ⇄ サービス提供事業所

③提供票（予定&実績）

事業所名
サービス名
サービスコード
提供開始～終了時間
1～31日の利用予定日
単位数

⑤コメント、メモ（H22年8月より搭載）

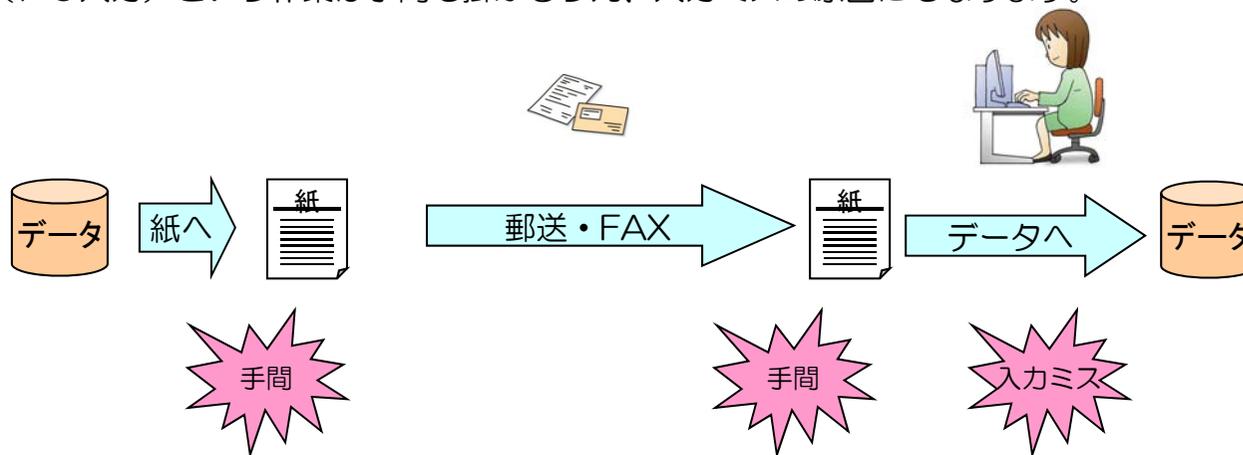
送信元事業所
送信者
宛先
件名
文書（メモ、コメント）

④提供票別表（予定&実績）

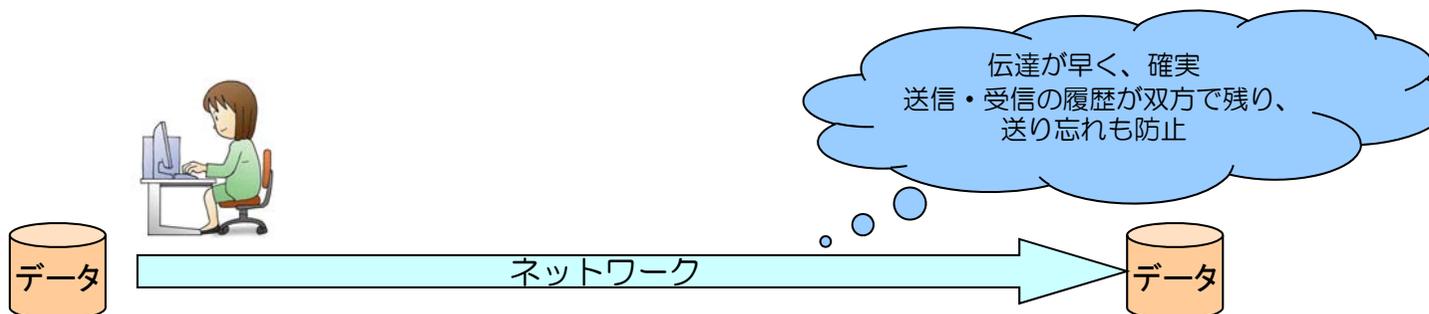
事業所名
サービス名
単位数、回数
地域単価
限度額、限度額超過
担当居宅、担当CM
給付率、割引率

介護情報ネットワーク メリット・効果

せっかくデータとして保有している情報を、紙に出力し、郵送やFAXで送付し、紙を受け取った事業所で、またデータ化（PC入力）という作業は手間も掛かるうえ、入力ミスの原因にもなります。



介護情報ネットワークにより、データを紙に変換する事無く、そのままデータとして相手の事業所のシステムへ送り、入力の手間、送付の手間、入力ミスの軽減を実現しています。



介護情報ネットワーク（地域包括支援センター連携）

予防委託（居宅）分の給付管理は、通常、紙などで居宅より実績報告を受け、地域包括支援センターにて委託分の給付管理票も手入力を行います。

介護情報ネットワークの場合、予防委託（居宅）先でシステム上に作成された給付管理情報をそのまま、地域包括支援センターシステムに受け渡しが可能であるため実績報告の手間、手入力の手間、入力ミスを防ぐことが可能です。

